

福祉の げんば 訪問記

第3回 ショートステイ 花りん

池田町堀之内の東山沿いにある、短期入所生活介護施設「花りん」を訪ねました。静かで広々とした空間の中にたたく存在感を示しています。施設長・看護師の百瀬恵美さんが親切に対応してくださいました。
(取材・文責 村端 浩)

まず施設の概要についてお聞かせください。

花りんは短期入所者(ショートステイ)専用の生活介護施設で、個室が20室あります。



施設内には事務所の他、みんなが楽しく交流できる多目的ホールや障がい者でも利用できる浴室などがあります。スタッフは17名です。

施設を利用している方々はどんな方で、どのように利用されていますか。

利用期間は1泊2日から1か月くらいまでさまざまです。土日や祝日には利用が集中しやすく、毎日の人数には相当ムラがあります。それでも、いまは平均すると20名定員の8割くらいの利用になっていますね。

利用される方は池田町だけではなく、遠くは豊科や白馬の方もいらつしやいます。

閑静な山里に位置するので、はじめは家族の方もびっくりされますが、いったん利用されると「とても静かで、秋には紅葉がきれい」と喜んでくださいます。今では半分以上の方がリピーターですよ。

スタッフの方々は、大変ご苦労されていると思いますが、いくつかをお聞かせください。

第1に短期入所なので、その人の生活を知るといふ点での苦労があります。

まず、ケアマネさんからの情報、家族からの連絡、スタッフの申し送りなどでよくその人を知るように努力しています。

中には、なかなか寝付かれない大きな声で呼んだり、独り言をずっとしゃべったり、外に出て行くという人もいますから、一人ひとりに即した対応には少しも気をぬけません。

第2に、施設に来ることにもうなう利用者意識の問題です。

デイサービスなら楽しみに行くという人でも、家族の都合で利用が2〜3日から一週間ともなると、「何でここにいるのか」、「いつたいていここはここだ」、「預けられて捨てられた」などというような意識を持つ人が



多くなります。家に帰りたいと思つて生活している人もいるわけで、そうした人たちの精神的なケアが大事になります。

第3に、利用者へのニーズや生活の変化への対応の問題です。画一的な対応になるのを避けるために、イベントも利用者の意見を取り入れていろいろ工夫しています。

女性の方が多く、最近では「たべものをつくる」(たとえば、まんじゅうやクッキー、薄焼きなど)を中心としたイベントを取り入れ喜ばれています。

自治体や国などに要望することはありますか。

介護職員の給料が安いという

ことが問題になっていますが、今のところ入ってくる額が決まっているので、上げたかと思つてもなかなか難しい。

最後に、町民の皆さんに知ってほしいことは?

このようなショートステイの施設があることを知ってほしいですね。

何かの事情で急に高齢者の世話が必要になったときには利用できるのです。これは本人だけではなく家族の負担軽減のためにどうしても必要なことですから。

百瀬さん、お忙しい時間丁寧に対応していただきありがとうございます。

なお、「花りん」という名前は、すぐ横を通る道がかつて「花岡林道」と言われたことから採用したのだそうです。

絶対に許せない! 関税撤廃TPPで 日本の農業は壊滅

菅内閣は11月9日、TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)について、「関係国との協議を開始する」と明記した「包括的経済連携に関する基本方針」を閣議決定。13日には「TPPについては、国内の環境整備を早急に進めるとともに、関係国との協議を開始する」と表明しました。

食料自給率はわずか14%に

農業分野の関税を完全に撤廃すれば、日本の食料自給率は14%まで低下、コメの自給率は1割以下になつてしまいます(農水省試算)。

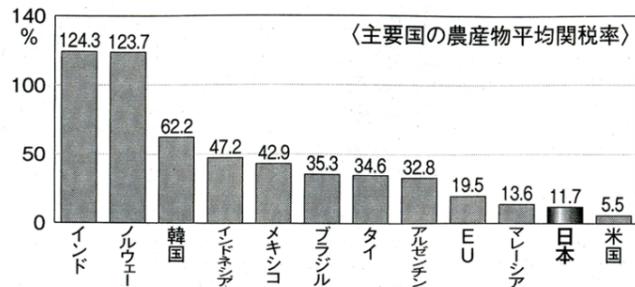
TPPは、関税を原則撤廃し、農産物の輸入完全自由化をすすめるものであり、日本農業と地域経済に深刻な打撃を与えます。農業・畜産などの全国組織や地方組織が大反対

世界で最も開かれた日本農業

農産物の関税撤廃は世界のう勢どころか、農産物輸出国であっても、農産物の平均関税率はEU 20%、アルゼンチン 33%、ブラジル 35%など高く、アメリカも乳製品や砂糖の輸入規制を続けています。日本はすでに平均12%まで関税を下げている、農業について「鎖国」どころか「世界で最も開かれた国」の一つになっているの

している理由はここにあります。打撃を受けるのは農業だけではありません。農水省は、参加した場合の雇用減を、農業やその関連産業などを合わせて340万人と試算、不参加の場合81万人の4倍以上にもなるとしているのです。

「鎖国」どころか世界で最も開かれている日本農業



出典:OECD「Post-Uruguay Round Tariff Regimes」(1999)

です(左の資料参照)。

恩恵は一部輸出大企業だけ

日本経団連などは、「乗り遅れるな」などと煽(あお)り立てています。この「恩恵」を受けているのは自動車・電機などの一部輸出大企業だけ。一部の企業のために、日本農業を破壊し、国民生活に多大な犠牲を負わせることなど断じて許されるものではありません。

日本農業と地域経済、国民生活を土台から破壊するTPP参加に断固反対し、日本の食料主権を守りましょう。

コラム 有明

▼東京・夢の島で開かれた「第40回赤旗まつり」に参加した。池田町からは初日の6日、11人が大北地域のひとともにバスなどで東京へ向かった。私は4年ぶりの開催とあって2日間出掛けた▼初日は妻、息子夫妻らとJR新木場駅に着いたが、あふれる人並みで歩けない。ようやく会場に入り、民医連の仲間の所へ行く息子たちと別れ、沖繩与那国島の花酒「ごなん」を求めに全国物産模擬店へと急ぐ。箱を開け棕櫚(シユロ)に包まれた瓶には60度とある。これだこれだ▼次に行った大書籍市会場、わきでは不破哲三、窪島誠一郎、松本たけし、白旗史郎ら各氏が机を並べ、その前に本を手にサインを求め人が長い列をつくらせている。市田書記局長と作家あさのあつこさんとの対談を聞き、ペギー葉山の「ドレミの歌」を耳にしながら夕刻、駅に向かう▼翌日は妻と2人で真つすぐ不破哲三さんの講座「科学の目で日本の政治史を読む」会場へ。人並みをかきわけようとして急いだが講義は始まつていて、第2会場もいっぱい。「時間がかかっても主権者たる国民の自覚と運動が歴史を開く」という講師にみんなうなずく▼翌日の赤旗は「10万人超す参加者」と報じていたが、暖かな快晴もあって元気をもらった2日間だった。

日本共産党 池田ファンクラブ・ニュース あした天気にな〜れ

109号 2010年11月
部内資料

発行責任者 村端 浩 (62-8440)
議員連絡先 山本 久子 (61-1066)
服部 久子 (62-4357)

日程が変更になりました

日本共産党池田ファンクラブ

2010年
定例総会・懇親会

12月
5日(日)

午前11時〜午後2時
池田町福祉会館
(一丁目)

午前の部 定例総会
・活動方針、町議選にむけての活動
・役員改選 など
午後の部 懇親会
・「中野さなえ」さん挨拶
・お楽しみイベント多数

会費 1000円 一品持ちより歓迎